

# 就労移行支援事業たより 【採用面接ってどんな感じ？】

現在、就職活動中のAさん。Aさんと一緒に、これまでの採用面接を振り返って、当日までの準備や流れ、面接ではどんなことを聞かれたのかなど、採用面接に関するお役立ち情報を皆さんにお届けしたいと思います。



まつもと

## 1. 基本的な採用面接の流れ

### ① 自宅から面接会場へ

#### (ア) 服装と持ち物チェック

- 身だしなみ、持ち物を確認します。

#### (イ) 10分前を目安に到着

- 携帯電話の電源は、切るかマナーモードにします。

#### (ウ) 会場に入ったら

- 面接を待っている間も面接の一部分、すれ違う人にも会釈またはあいさつをします。

前日にタイムスケジュールを確認して、1時間前には準備が整えられるよう、早寝早起きをしています。トイレが近くなるのでコーヒーは飲みません。



Aさん

### ② 入室から面接開始まで

#### (ア) 部屋に入るとき

- ドアをノックし、相手の返答後「失礼します」と言って入室します。
- ドアは静かに開閉し、入室後は一礼します。

#### (イ) 席に着く前に

- 席の横で「本日面接に参りました〇〇です。よろしくお願いします」とあいさつをします。
- 面接官から「おかけください」と言われてから座ります。

#### (ウ) 姿勢よく座る

- 男性は手を軽く結んで膝の上に置きます。
- 女性は重ねて膝の上に置きます。

就職面接会では、たくさんの応募者がいてドキドキしたことを覚えています。どの面接でも、会釈をしたり、ハキハキと話すようにしたりするよう心がけています。



### ③ 面接中

#### (ア) 表情、視線

- 面接官の目を見ましょう。(難しい時は鼻のあたりを見ます。)

#### (イ) 答え方

- 面接官の質問は最後まで聞き、返事をして返答します。

質問を想定して、返答を事前に文章で作成したり、それを読んだりしてスムーズに受け答えができるよう準備しています。また、面接練習をしています。これらの準備を通じて、自信が持てるようになり、当日も少し余裕を持てたと思います。



### ④ 退室から会場を出る

#### (ア) 席を立つ時

- 面接が終わったら、「本日はどうもありがとうございました」とあいさつをします。
- その後、立ち上がって「ご選考のほど、よろしくお願いいたします」とあいさつします。

#### (イ) ドアの前で

- 一礼してから退室、ドアは静かに開閉します。

#### (ウ) 会場を出る

- 会場の外に出るまでも面接の一部。態度や口調が崩れないようにしましょう。

ドアの開け閉めは静かに、面接官に背中を向けないように、部屋を出るまで気を抜かないようにしています。



## 2. 面接で聞かれたこと（障害があることを伝えた上での面接）

あくまで一例ですが、志望動機、自己PR（人柄・強み・できること）、希望職種（または、避けたい職種）、職歴（得意な仕事・苦手な仕事）と退職理由、配慮事項※など聞かれることがありました。

※ 障害があることを伝えた面接の際には、ご本人の同意の下、特性や必要な配慮を相互に理解して働くことが前提となるため、苦手なことやストレスに感じる点、自分で工夫していること、企業側へお願いしたいことなど、面接の際に尋ねられることがありました。

最後に「質問や確認したいことはありますか？」と聞かれることがあります。私は、「仕事に必要な資格やスキルはありますか？」と聞いたことがあります。



Aさん

## 3. 企業が知りたいことと背景

企業側は「なぜうちで働きたいのか」「どんな人柄なのか」「どんな活躍を期待できるか」ということや、「体調やコンディションは整っているか」「どんな内容の仕事を任せられるか」「どれくらいの量だと負担なく仕事を続けられるか」「困ったときにSOSや相談ができるか」「会社はどんな環境で、どんな配慮を準備したら良いか」などを知りたいと思っています。できるだけ、あなたのことを正確に知り、入社後も活躍してもらえる人材かイメージを持ちたいのではないのでしょうか。

## 4. 採用面接にむけて準備すること（志望動機の考え方）

応募書類を作成するときに、苦労すると聞くのが志望動機です。ここでは、志望動機の考え方について説明します。志望動機は、あなたがその企業を選んだ理由であり、面接に進むための重要な項目です。志望動機を見て「会ってみたい」と企業側が感じるような志望動機を目指しましょう。志望動機を考えたときのポイントについてお伝えします。

### ① なぜ、この企業で働きたいのか

- 企業理念、事業内容、社風など、何があなたを働きたい気持ちにさせたのは？

### ② なぜ、この仕事がしたいのか

- 経験がある、興味がある、スキルを活かせるなど、この仕事を選んだ理由は？

### ③ 入社後にはどうがんばりたいか

- 企業側は入社後の活躍を期待しています。何を、どうがんばりたいのか？

体験実習を経て応募する場合は、実習でしたことやできたこと、そこで学んだことや分かったことを志望動機に記載するようにしています。

記載の際には①根拠を示して、②分かりやすく、簡潔に、③企業の目線を意識して作成します。そのためにも、自己分析だけでなく、企業分析の視点も必要となります。



## 5. 就職の準備

就職をするためには、これから面接する企業の方に自分のことをよく知ってもらう必要があります。そのためにも、まず自分が自分自身について知っておく必要があります。就職活動のために、①性格傾向、②強み・弱み、③興味関心、④働く条件、⑤障害・疾患について自己理解を深めるとよいでしょう。自己理解を深めるために、これまでの経験を振り返ったり、周りの人に自分のことを聞いてみたりするのもいいかもしれません。

私は、自分の障害や疾患を知ることがとても大切だと感じています。これらを知ること、自分に合った働き方が考えやすくなるからです。私の場合、1ヶ月の勤務日数や1日の勤務時間を考えました。



## 6. おわりに

当日までの準備や流れ、面接ではどんなことを聞かれたかなど、参考になったでしょうか。また、面接では、面接官としっかり受け答えして、いい印象を持ってもらうために、いろいろな準備が必要だということを確認できたでしょうか。具体的な準備として、自己分析や自己理解、そして企業理解が大切です。そして、自己理解を深めていくことは、自分のできることややりたいことに気づき、結果として企業選びや職業選びに役立ちます。しかし、ひとりで準備をするのも大変だと思います。就職活動に関する悩みや不安があれば、周りの人や支援者に相談をしてみてくださいね。Aさん、貴重な体験をお話しいただきありがとうございました。